資料3

こども若者県政モニター・障がい福祉に関するアンケート調査結果（速報値）

障害福祉課

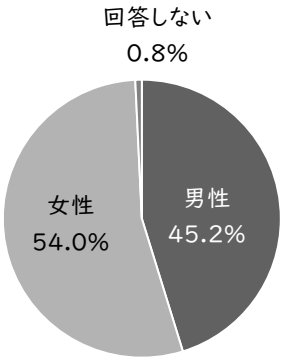
1 調査対象等

・回答者：こども若者県政モニター398人
・調査期間：令和8年7月8日～7月26日

2 回答者属性

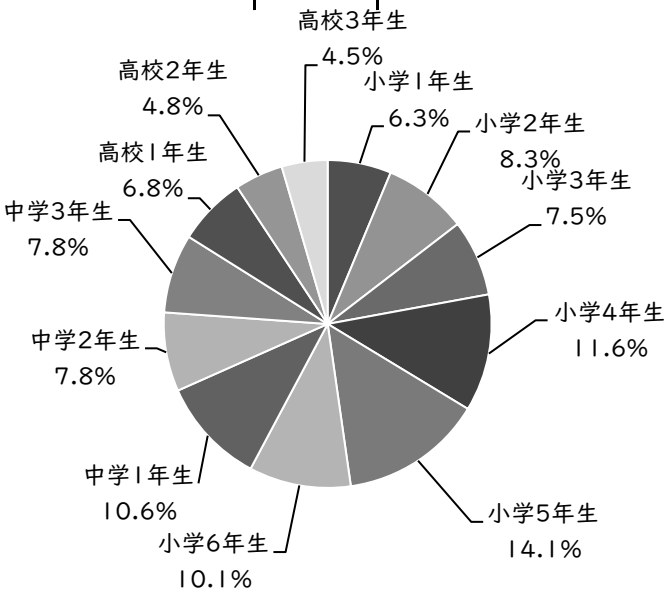
（1）性別

	人数	割合
男性	180	45.2%
女性	215	54.0%
回答しない	3	0.8%
計	398	100.0%



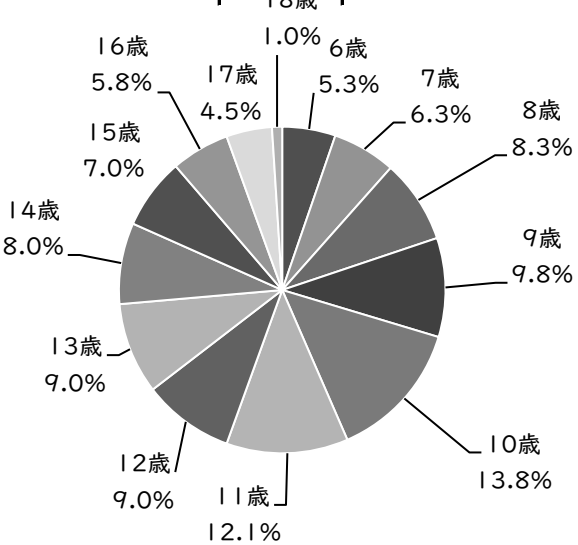
（2）学年別

	人数	割合
小学1年生	25	6.3%
小学2年生	33	8.3%
小学3年生	30	7.5%
小学4年生	46	11.6%
小学5年生	56	14.1%
小学6年生	40	10.1%
中学1年生	42	10.6%
中学2年生	31	7.8%
中学3年生	31	7.8%
高校1年生	27	6.8%
高校2年生	19	4.8%
高校3年生	18	4.5%
計	398	100.0%



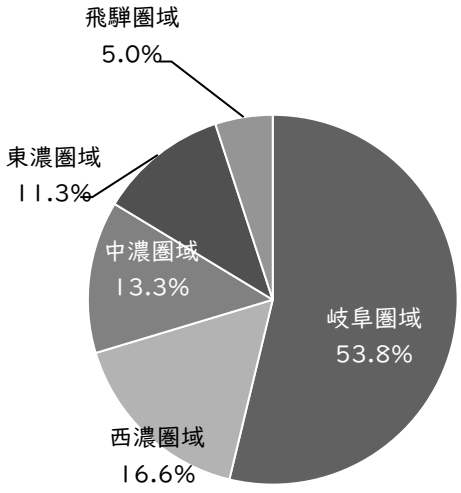
（3）年齢別

	人数	割合
6歳	21	5.3%
7歳	25	6.3%
8歳	33	8.3%
9歳	39	9.8%
10歳	55	13.8%
11歳	48	12.1%
12歳	36	9.0%
13歳	36	9.0%
14歳	32	8.0%
15歳	28	7.0%
16歳	23	5.8%
17歳	18	4.5%
18歳	4	1.0%
計	398	100.0%



(4) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	214	53.8%
西濃圏域	66	16.6%
中濃圏域	53	13.3%
東濃圏域	45	11.3%
飛騨圏域	20	5.0%
計	398	100.0%



3 調査目的

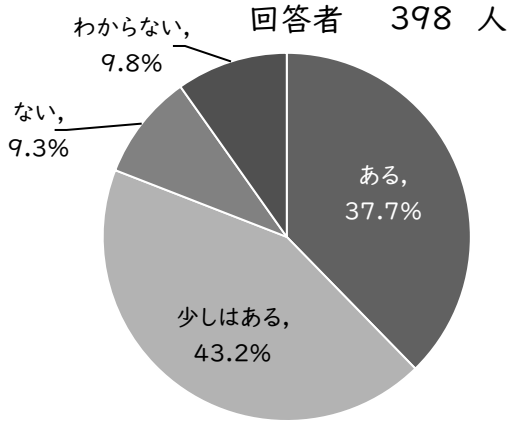
今後の障がい福祉に関する取組の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

4 調査結果

問1　あなたは、障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見が社会にあると思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

回答者　398 人

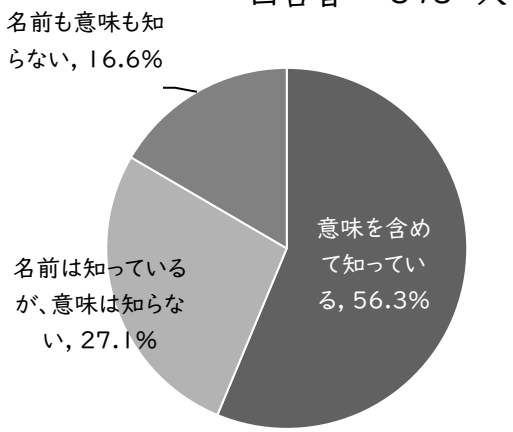
	人数	割合
ある	150	37.7%
少しはある	172	43.2%
ない	37	9.3%
わからない	39	9.8%
計	398	100.0%



問2　あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

回答者　398 人

	人数	割合
意味を含めて知っている	224	56.3%
名前は知っているが、意味は知らない	108	27.1%
名前も意味も知らない	66	16.6%
計	398	100.0%

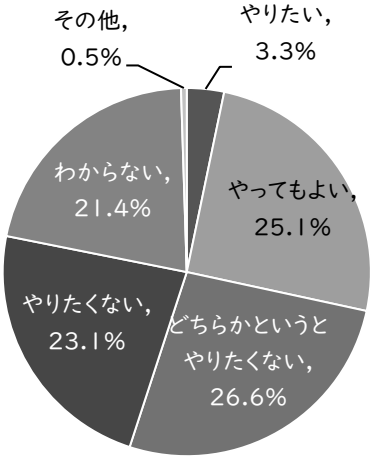


問3　あなたは将来、障がい福祉分野に関する仕事（※）をやりたいですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

回答者　398 人

（※）「障がい福祉分野に関する仕事」とは
・精神保健福祉士：精神に障がいのある人が、地域で暮らすための支援を手がけます。
・障がい者支援施設職員：入所する障がいのある人に対し、身の回りのお手伝いや訓練等を手がけます。
・相談支援専門員：障がいのある人の地域生活を支えるサービスの相談や手配を行います。
・障がい児者居宅介護従事者（ホームヘルパー）：障がいのある人の自宅に行き、生活上の様々な支援を行います。
・ガイドヘルパー（移動介護従事者）：障がいのために外出が困難な人に付き添い、移動を手伝います。
・手話通訳者：耳が聞こえない人などのコミュニケーションを、手話で手伝います。
・義肢装具士：手足を失った人などの義肢や装具を作り、体に合せます。

	人数	割合
やりたい	13	3.3%
やってもよい	100	25.1%
どちらかというとやりたくない	106	26.6%
やりたくない	92	23.1%
わからない	85	21.4%
その他	2	0.5%
計	398	100.0%



「その他」のうち主なもの
・他にやりたい仕事があるから

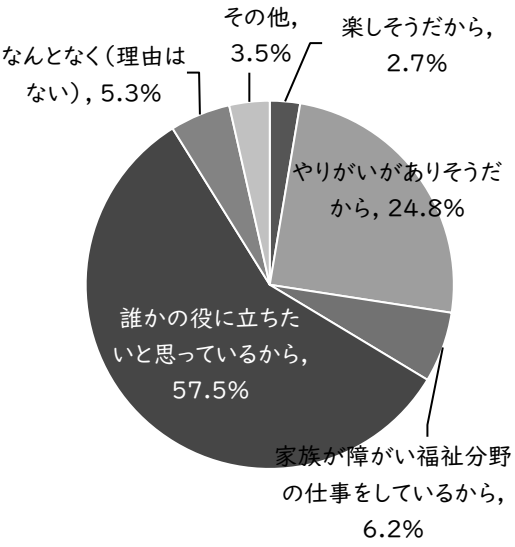
問3－1（問3で「やりたい」「やってもよい」を選んだ方）

どうして将来、障がい福祉分野に関する仕事を「やりたい」または「やってもよい」と思いましたか。次の中から自分の気持ちに近いものを1つ選んでください。

回答者　113 人

	人数	割合
楽しそうだから	3	2.7%
やりがいがありそうだから　（※）	28	24.8%
家族が障がい福祉分野の仕事をしているから	7	6.2%
誰かの役に立ちたいと思っているから	65	57.5%
なんとなく（理由はない）	6	5.3%
その他	4	3.5%
計	113	100.0%

（※）小学生用の選択肢は、「がんばってやったら、やってよかったと思えそうだから」



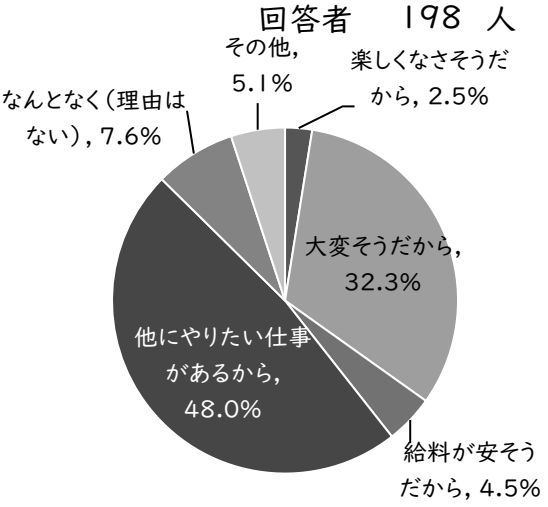
「その他」のうち主なもの
・手話をつかうことができて、今、自分ができることを活かしたいから
・私の弟が発達障がいだから

問3－2（問3で「どちらかというとやりたくない」「やりたくない」を選んだ方）

どうして将来、障がい福祉分野に関する仕事を「どちらかというとやりたくない」または「やりたくない」と思いましたか。次の中から自分の気持ちに近いものを1つ選んでください。

回答者　198 人

	人数	割合
楽しくなさそうだから	5	2.5%
大変そうだから	64	32.3%
給料が安そうだから	9	4.5%
他にやりたい仕事があるから	95	48.0%
なんとなく（理由はない）	15	7.6%
その他	10	5.1%
計	198	100.0%



「その他」のうち主なもの

・感情移入しすぎるので悲しくなってできない

・あまり気遣いたくない

・めんどくさい、薄給、正直自分には関係ない

問4　あなたは、岐阜県が、障がいのある人にとってもより住みやすい県になるには、どうすればいいと思いますか。ご意見があれば、ご記入ください。（主な意見）

＜交流する＞

- 一緒に遊べば仲良くなる。
- 小学校で行われる地域の老人ホームへの交流のように、障がい者支援施設とも交流できる機会を設ける。
- 障がいのある人もない人も変わらないから、交流できる場所があればみんな集まると思う。
- 障がいのある人も一緒に遊べたり、楽しめたり、安全なユニバーサルデザインを開発したりするイベントがあるといいと思う。

＜障がいについて知る＞

- まず、たくさんの人に「障がい」だけではなく、どんな障がいがあるのか、その人たちはどのように生活を送っているのか知ってもらう。その上で障がいのある人たちがどんなところで困っているのか、生活しにくいと思っているのかを知る必要があると思う。
- みんながもっと障がいや福祉について知ることが出来たらいいと思う。
- ヘルプマークなど、障がいのある人を支える制度について、もっと多くの人に知ってもらうことが大切だと思う。学校や地域で学ぶ機会を増やすことで、困っている人に自然に声をかけられる人が増え、障がいのある人も安心して生活できる岐阜県になると思う。

＜思いやりをもつ＞

- みんなが障がいのある人など、困っている人に声をかけて、困っている人がいれば優しく手伝ってあげると住みやすい県になると思う。
- みんながおもいやりを持つことで住みやすくなると思う。障がいの体験をすることで、知ってもらうことも大事だと思う。
- 障がいのある人は、何か困るようなことがあるかもしれないから、そういうときは親切にすると良いと思う。

＜道路、設備等を改善する＞

- バリアフリートイレをつくったり、誰でも場所を選ばず入れるようにスロープをつくったりして、みんなと同じ生活がスムーズにできるようにしたらいいと思う。
- 広くてきれいなどうろにする。がだがたのどうろだと通りにくい。
- 所々にあるちょっとした段差をなくし、音が出る横断歩道の信号機を都市部だけでなく郊外にも設置した方がいいと思う。

＜障がいのある人向けの施設をつくる＞

- 障がいのある人が、子どもの時は親が介護できるから良いけど、大人になる頃には親も高齢になっていて、介護ができない。障がいのある人専用の施設、アパートみたいなところを増やすのが、しっかりケアも出来て、良いと思う。
- 障がいのある人が利用できる快適に過ごせる施設をつくる。

＜その他＞

- 障がいのある人が働く場所をつくる。
- 福祉の分野で働く人たちのお給料をもっとあげたらいいと思う。大変なお仕事なのに安いから、働く人が少なくて、障がいのある人も困っていると思う。
- 盲導犬の同伴が可能な店を増やす。